

# 住み慣れた地域で いきいきと自分らしく暮らせるまちへ

地域では、少子高齢化とともに地域のつながりや支え合う力が弱まっている  
また、10年後の地域はどうなっているのか、先が見えない状況である  
これらの現状を解決するには、自助（自分のことは自分です）とともに、  
共助（地域などでお互いに助け合うこと）の力を高めていく必要があるのではないか  
七尾市が取り組む「支え合いマップづくり」を通して、地域の実情やさまざまな課題を見つけ、  
住民同士が、協働で課題解決に取り組む地域づくりを考える

# 支え合いの仕組みづくり

住み慣れた地域で、いきいきと自分らしく暮らすためには、何をしなければならぬのでしょうか。皆さんは、考えたことがありますか。

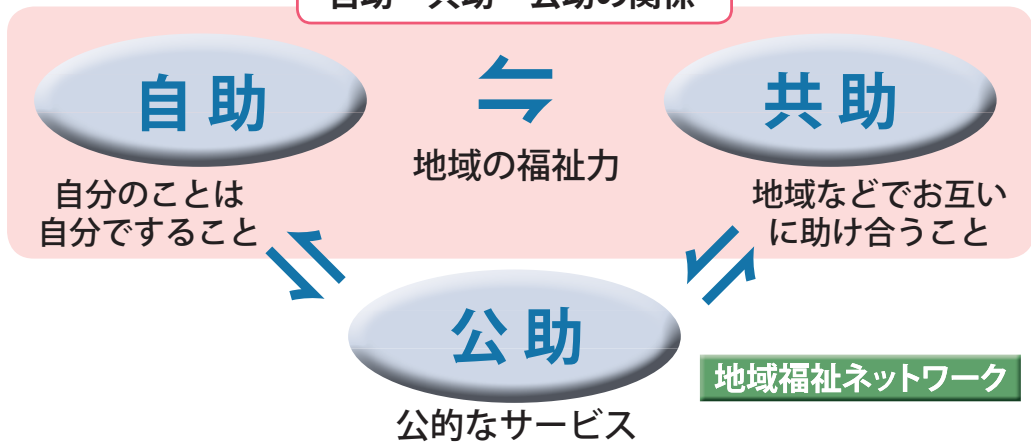
福祉といえば、サービスをする・されるというイメージを持つ人が多いと思いますが、自分自身や地域は、何もしなくてもいいのでしょうか。

少子高齢化や地域で支え合う力が弱くなっている中、公助（公的なサービス）の役割にも限界があります。

そこで、自助（自分のことは自分でする）とともに、共助（地域などでお互いに助け合うこと）の力が必要となります。特に、共助の力を高めることが必要であり、地域全体で支え合う仕組みづくりが急務となっています。

七尾市は、共助の力を高めるための手段の一つとして、「支え合いマップづくり」に取り組みを決めました。「支え合いマップづくり」とは、ふれあいや助け合いの実態を、住宅地図上に目で見える形で記載することです。記載した地図を活かして、助け合いのご近所づくりを目指します。また、マップづくりから見えてくる課題を整理し、解決に向けた行動を導き出すことにも役立ちます。

## 自助・共助・公助の関係



### 誰がマップづくりをするの？

地域福祉を進めたい人なら、誰でもOKです。町内会や民生委員、地区社会福祉協議会やご近所の世話焼きさんなどが集まり、お互いが知っている情報を出し合います。



### どれくらいの範囲でやるの？

約50世帯を一つの範囲と決め、マップづくりをスタートします。

### マップづくりで調べることは？

- ① 要援護者とその人に関わっている人―助け合いの実態―
- ② 住民のふれあい状況(サロンなど)
- ③ 住民の生活課題
- ④ 世話焼きなどの人材分布
- ⑤ 関係機関と住民の協力状況
- ⑥ ひとり暮らし高齢者の分布
- ⑦ 要援護者の困りごと
- ⑧ 要援護者を誰が支えているのか
- ⑨ 障がい者をご近所で支えているかの確認など

これらの内容を調べながら、マップ上に線を引いたり、シールを貼ったりします。記載が終わったら、必ず課題が見えてきます。支え合いマップづくりをした皆さんの感想は次ページに！また、この取り組みに興味がある人は、お問い合わせください。

問 福祉課 ☎53-8463

## 支え合いマップづくり